武生ルネサンス通信

2016.12.9

270 号

12 月例会のお知らせ

日　時　　：　12 月 18 日（日）　夕方 6 時半～
場　所　　：　府中町屋倶楽部
内　容　　：　笑年会
先月は貴重な休日を、絵暦の仕上げの地道な手作業に提供して戴いて、ありがとうございました。皆様のご協力によって、今年も武生ルネサンスの絵暦を発行することが出来ました。
さあ恒例の年末の会です。大いに笑い合いましょう。申し込みは 15 日までにお願いします。
申し込み　：　09062705547/0778-29-2171（三木）まで。
会　費　　：　弁当代　2,000 円

■最近の日の出は朝 7 時頃で、日の入りは夕方 5 時頃です。夏だったら夕方 7 時ぐらいまで明るいのに、今時分は本当に早く日が暮れます。現代は「定時法」と言って、1 日 24 時間を等分割して、1 時間の長さを決め、季節に関係なくいつでも同じ長さです。ところが明治 5 年の改暦以前、つまり江戸時代までの日本では「不定時法」が使われていました。
不定時法というのは、日の出のおよそ 30 分前を「明け六つ」、日没のおよそ 30 分後を「暮れ六つ」とし、その間を昼夜それぞれ 6 等分してその一区切りを「一刻」としました。すると一刻の長さが、季節によっても、昼と夜でも違ってきます。これは、まさに日の出と共に起きて、日没と共に寝る昔の人々の生活にあっています。明治以前には、庶民は時計を持っていませんでしたので、太陽の高さでわかる不定時法は、かえって便利だったようです。明治の改暦と共に、不定時法から、西欧の定時法になり、時間の概念も変わったことになります。
■12 月 7 日は二十四節気の「大雪（たいせつ）」でした。立冬から 30 日目にあたります。山の峰は積雪に覆われるころなので大雪と言いますが、今年は有難いことに平野ではまだ雪が降っておりません。

■先月の 23 日に絵暦のケース入れ作業を終えて、予約していただいたところに次々に絵暦を届けています。色々な方面から感想が届いておりますので、その一部を紹介いたします。
「本当に見事な写真ですが、それにもまして添えられた句の素敵なこと。後藤祥子様（東京）」「主人の病室の窓際に置いていますので、どなたにもよく見えます。今年は時々ハッとするような色彩が楽しめます。月の形も毎日楽しんでいます。信多智代子様（芦屋）」「村国山にこんなに虫たちが棲息しているとは。この絵暦、もう四半世紀になるのですね。武生の文化になっています。小田貞夫様（横浜）」「月の形も解りやすく、一年楽しみます。朧谷寿様（京都）」「絵暦どの写真も惚れ惚れします。眺めていてドキドキします。神田橋條治様（鹿児島）」「この絵暦は本当に労作です。写真と文章もいいですね。筆谷正夫様（高岡）」「武生ルネサンス、息長く続いていますね。今年は虫ですか。かわいいですね。また定位置に置きます。上野千鶴子様（東京）」「トンボ少年だった加古にはとりわけ懐かしい暦です。10 冊購入したいのでご手配願います。加古さとし様娘さん（神奈川県）」「今年も非常に心惹かれる暦ですね。毎年楽しみにしています。山縣美由紀様（広島）」